

中学生が職場を体験しました!

中学生記者



後藤さん 山田さん
※お互いの似顔絵を挿絵しました

この夏休みに、中学生がさまざまな職場を体験しました。

私たち2人は美術部で、絵を描くことが好きなことから、将来、その特技を生かせる仕事をしたいと思っています。

そこで、私たちは町役場で、役場の仕事を教えてもらいながら、役場の人と一緒に広報紙の紙面づくりを体験させてもらいました。

他の生徒も、さまざまな会社に受け入れてもらい、例えば、今年は初めて、最先端の医療機器を開発しているテルモ(株)さんで、二宮町からは21名の生徒が体験しました。

それぞれの一日は、初めてのことばかりの連続でしたが、とても良い経験になると同時に、私たちの親も家族や社会のために働いてくれていることを、改めて感じることができました。

この経験を将来に生かしていきたいと思います。

ありがとうございました。



テルモ株でカテーテル手術を体験する様子

熱心にメモをとるなど、初々しい姿を隣で見て、逆に良い刺激をいただくことができました。数年後には、どんな社会人になっているのでしょうか。今からとても楽しみです!

おじさん記者

この記事は、役場で職場体験学習を実施した二宮中学校2年の後藤倫太郎さんと山田海人さんが編集に携わっています。

図書館ティーンズコーナー意見交換会

10代が利用したくなる図書館へ

図書館2階には、小学校高学年～中学生・高校生向けの本が並ぶ「ティーンズコーナー」があります。

若い世代の方から、図書館に親しみを持ち、気軽に利用してもらいたいことから、コーナー充実のために中学生との意見交換をしました。

3回目となる今年は、二宮中・二宮西中の生徒11名が、本の面白さや感動した点などをまとめた「ポップ」を手作りし、コーナーの本に添えてくれました。また、好きな作家や読みたい本など、本に対する熱い想いを語り合い、10代に足を運んでもらうための方法についても話し合いました。

「ドラマや映画化された小説の原作本を置いたら、手に取ってくれるかも」、「ファッション誌の種類を増やしてほしい」など、中学生らしいアイデアがいっぱい! これからも10代の提案をもとにして、コーナーを充実していきますので、ぜひ、ご利用ください。



意見交換会



中学生作のポップ

今回作成した手作りポップは、10月31日(水)まで展示中です。イラスト入りの力作をぜひご覧ください。



二宮町シルバー人材センターさんが「空き家の適正管理」をバックアップ



全国的に問題化している空き家。問題となる理由は、適正に管理されることなく、安全・衛生などのさまざまな面で、周辺に影響を与えている空き家があるからです。

原因の一つに、所有者が遠方に居住していることなどがあげられますが、そのような場合、町は所有者にシルバー人材センターを紹介し、所有者とセンターが契約のもと、空き家を適正管理していくというシステムを構築するため、「空き家等の適正管理の推進に関する協定」を締結し、9月からスタートしました。

内藤理事長からは、「この町や地域に貢献するというのがモットーです。」と心強いお言葉をいただき、10月からは、ふるさと納税の返礼品として、このシステムが導入されるとのことで、空き家問題の解決に期待が寄せられるところです。

シルバー人材センターでは、地域貢献のほか「高齢者の生きがいづくり」ということも、活動目的となっています。ぜひ、皆さんの経験や知識などを活かしてみませんか。会員登録は、下記までお問い合わせください。

二宮町シルバー人材センター ☎71-0681

ふるさと回帰フェアで移住促進



9月9日(日)のこと。国内最大級の移住イベント「第14回ふるさと回帰フェア2018」に、二宮町の相談ブースを設けて、移住のお誘いをしました。

会場となる東京国際フォーラムには、20,686人(主催者発表)の来場者が訪れ、全国各自治体のブースで移住の相談がされる中、二宮町も声を上げてPR!

その声の送り主は、「二宮町に可能性を感じて引っ越してきました」と、ここ数年で実際に移住されてきた町民の方々。町民の生の声を発信して移住促進をする二宮流のご案内もあって、多くの来場者に二宮町ブースを訪れていただきました。

町民の生の声を聴けるということもあって話が弾み、「今週末に一度、行ってみます」といったご感想をいただく方もいました。

二宮町ブースでお話しできたご縁から、少しでも多く、二宮ファンとしてこの町に引っ越してきていただければと願うばかりです。きみのふるさとになりたい

各種お知らせ

生涯学習ガイド

健康づくりガイド

じょうほう館

各種相談

トピックス